

## 沖縄支部が開設されました

### 支部長挨拶

健康栄養学科2期生 亀谷 匡



同窓生の皆様はじめまして。会誌をご覧いただいている皆様はご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、平成25年6月29日に長崎国際大同窓会沖縄支部発足会を開催し、先日本部同窓会に正式に支部発足を届け、沖縄支部支部長を拝命しました4期生(健康栄養科2期生)の亀谷匡と申します。

卒業後は沖縄に戻った同期で沖縄独自文化の模倣を始め集まる機会をもっていますが、学年が違う先輩方や後輩たちとはなかなか集まる機会がありませんでしたので、学年を超えた卒業生が集まることのできる同窓会支部が発足できたことはとても嬉しい思います。

沖縄支部発足会に向けた話し合いや発足会に参加していただいた先生方や同窓生、相談役として参加していただいた琉球大学理事・副学長である富永大介先生皆様のおかげで沖縄支部を発足することができました。同窓会沖縄支部発足にあたり、誌面にて失礼かとは存じま

### 支部役員紹介

国際観光学科2期生 小底 大吾



長崎国際大学 沖縄地区同窓会の発足、本当にうれしく思います。

私たちの出身である沖縄に於いて、母校の同窓会支部会が行われることを嬉しく思うと共に、安部理事長を始めとする、関係者皆様の情熱に感謝を申し上げます。

私は国際観光学科第二期生の小底大吾と申します。

8年の旅行会社勤務を経て、昨年より竹富島に戻り実家の水牛車観光を手伝いながら、これまで培った経験と人脈を活かして、更なる観光の発展を目指して日々努力しております。

これから少しずつ卒業生の輪を広げ、大学と共に成長していく同窓会を目指して、微力ながらお手伝いさせて頂ければと思っておりますので、宜しくお願ひ致します。

健康栄養学科2期生 野波 丈倫



この度、長崎国際大学同窓会沖縄支部の役員となりました、沖縄県出身の健康栄養学科2期生の野波丈倫です。現在は鹿児島県の医療法人 蒼風会 児玉病院で管理栄養士として務めています。

平成25年6月29日に行われた在学生の保護者懇談会と合わせて発足した初の支部。沖縄県出身の卒業生が多

すが安部直樹理事長・学長、木村勝彦副学長をはじめとする先生方や職員の皆様、同窓生の皆様に感謝申し上げます。

発足会終了後に開催された保護者懇談会では、私が地元で活動している旗頭を通じて知り合いになれた方と偶然にも同窓生と保護者としてお会いすることができ、繋がり、縁の凄さを改めて実感しました。

今後は支部総会だけでなくビーチパーティーなどの行事の計画や、ソーシャルネットワークも活用した沖縄に在住している同窓生以外にも、沖縄県外にいる同窓生、沖縄出身の在学生が繋がりあえるような支部にしていきたいと思います。

沖縄支部は発足したばかりで、まだ卵から孵った雛のような状態です。これから先生方や相談役の富永大介先生、役員の小底大吾さん、野波丈倫さん、同窓生の皆様のお力を借りし大事に育てていきたいと思いますので、暖かく見守っていただけたらと思います。

また、長崎国際大学、同窓会の発展のために、同窓会沖縄支部支部長として微力ながら努めさせていただきますのでこれからも宜しくお願ひ申し上げます。

く、なかなか長崎までは行けない沖縄の方にとって待ちに待った支部発足であったと思います。

保護者懇親会で保護者とお話する機会があり、進路や将来を心配していた方が多くいらっしゃいました。沖縄から簡単に会いに行くことができないため、より心配になるのではないかと、自分も父親となった今なら分かる気がします。その心配を今後の同窓会の活動を通して少しでも和らげていきたいと感じました。保護者から「ここまでしてくれる大学はなかなかない。長崎国際大学でよかったです。」という声があり、卒業生として嬉しくなりました。

同窓会後の夜は先生方も一緒にやはり飲み会!追試を何度も受けた学生生活、管理栄養士国家試験の勉強に励んだ日々、在学中の思い出にと思って立ち上げたエイサーサークル、様々な思い出が蘇り学生に戻ったような気持ちになりました。また、それぞれ仕事を頑張っている話を聞いて、もっと頑張らないといけないと励みになりました。

同窓会沖縄支部は沖縄県出身以外にも沖縄県内で働いている卒業生全員が参加できるので多くの方と繋がりあえる場になると楽しみにしています。人口の減少が懸念される中、東京よりも人口増加率が高く日本一のが沖縄県です。アジアに近く、観光産業が多く、肥満が問題になっている沖縄には、今後沖縄出身の卒業生、沖縄で働く卒業生が増えるのではないかと予想されます。沖縄支部ならではの事業を計画し、今後の長崎国際大学の発展のために微力ながら務めさせていただきますので宜しくお願ひ申し上げます。

# 長崎国際大学 同窓会誌

2014.3  
VOL.7

Nagasaki International University

【発行元】長崎国際大学同窓会  
〒859-3298  
長崎県佐世保市ハウステンボス町2825-7  
長崎国際大学事務局  
TEL.0956(39)2020 FAX.0956(39)3111  
E-mail:dousou@niu.ac.jp



平成26年3月8日(土)、平成25年度長崎国際大学卒業証書・修了証書・学位記授与式が挙行され学部生304人、大学院生9人の計313人が卒業・修了を迎え、本学を巣立つていかれました。

卒業式には、来賓や多くの保護者にも出席いただきました。卒業式終了後は、

各学部ごとに分かれ、それぞれに卒業証書が手渡されました。また、在学生が主催した卒業記念パーティーが開催され、卒業生、教職員、保護者が参加し、在学中の思い出話や将来の抱負がそれぞれに語られていました。

同窓会員数もこれで、3800人を超えることとなりました。

さて、長崎国際大学同窓会 悠和会が設立されて、もうすぐ4年が経とうとしています。また、先日、悠和会 沖縄支部も発足致しました。

私たちにできることは、各地に巣立つて行く卒業生を結ぶことです。これからも同窓生の現況や後輩たちの様子、それから同窓会の開催など、情報発信と収集に励んで参りたいと思います。同窓会への登録がお済みでない方は、登録よろしくお願い致します。また、今後、同窓生による広報誌への投稿も企画中です。そちらの方もよろしくお願い致します。

寒暖の差でお身体を崩されませんよう、お祈り申し上げます。今後とも、長崎国際大学同窓会 悠和会への理解と協力を、どうぞよろしくお願い致します。



長崎国際大学 悠和会 会長  
折原 賢児

## 学長・理事長挨拶 ～凛々しさを求めて飛躍せよ、我が仲間達～

第13回の卒業生313人を3月8日に送り出しました。313人中留学生56人、9人の大学院生を含めた新たな旅立ちの日でありました。これから社会に出ていく卒業生、そして、今現在社会で活躍している卒業生の皆さん、いろんな辛いこと、苦しいことが多いとは思いますか、元気を出し、力強く生きていってください。人生には喜び、楽しみ、苦しみ、辛さなど、さまざまあります。しかし、人生には大切なことがあります。

人類の歴史が始まって以来、人はいかに社会が、いかに自分が幸福になるかを追求してきました。美味しい食材を求め、快適な生活をつくり、交通機関も飛躍的に進歩し、医療また、コンビニエンス（便利さ）の追及も人間がより幸福になるためのものでした。しかし、今文明社会は壁にもぶつかっています。幸福だけを求める事、豊かさだけを求める事の困難性があります。幸福は不幸福と、豊かさは貧しさと表裏一体であることです。人間が一日も早く生きたい、健康で生きたいという願いが長寿社会、世界の人口増大をもたらし、それは、毎年4万種類の生物を絶滅に追い込みました。生活の豊かさが経済成長につながり、競争社会、成果主義を生み出しました。その結果、バブル崩壊、リーマンショックなど格差社会の先鞭をもたらしました。

グローバリズムの流れは一方で世界共通の理念を流布しましたが、一方で深刻なテロリズムや地方の紛争をもたらしています。21世紀、大きく産業も考え方も転換期にきていました。今、高校3年生が生まれたのが平成8（1996）年、世界の情報通信を席巻しているGoogleは、平成10（1998）年に誕生しました。その歴史は今、高校3年生より短いです。アメリカのデューク大学の研究では平成23（2011）年に小学校に入った人が大学を出る頃には、65%は今はまだ存在しない仕事に就くだろうという予測を出しています。すなわち、今の小学生以下の子どもが働く社会や職業は、まだこの世の中には生まれていない。それぐらいのものすごいスピードで世の中は変化していくのです。

## 副学長・同窓会悠和会理事挨拶 ～桃花春風に笑む～

厳しい冬の寒さも過ぎ去って、美しい春の訪れが感じられるようになってきました。まさに万葉の秀歌「石（いわ）ばしる垂水（たるみ）の上のさ蕨（わらび）の萌え出づる春になりけるかも」（志貴皇子）が歌い上げたような、喜びの季節の到来です。

本学では今年も3月8日に卒業式・大学院修了式が挙行され、雲ひとつなく晴れ渡った青空のもと、3学部4学科及び2研究科3専攻の合計313名の若者たちが社会に巣立つて行きました。毎年繰り返される喜びと涙の光景に、同窓生の皆さんを送り出したかつての日を思い起こすと共に、「年々歳々花相似似たり、歳々年々人同じからず」という句を実感せざるを得ません。一抹の寂しさの中にも、新たな人生のスタートを見届けることは、大学の教職員にとって大きな充実感をもたらしてくれるものもあります。

こうした大学のありようは、「人面は何（いはず）れの処に去れるかを知らざれど、桃花は旧に依（よ）つて春風に笑（え）む」と

しかし、文明の進歩はいつのまにか人のつき合いを疎遠にし、買い物も情報もインターネット、お金は使うものののに、お金を使って更にお金を増やそうとする金融派生商品も生まれました。とかくしますと、成績のみを強調し、人が持つべき誠実、努力、慈愛などが、価値の外に位置してしまっているのです。

私たちは、文明の進歩をいつも検証しつつ、進んでいくことが大切です。本大学は地域の人々の温かい思いの中で誕生しました。そして、卒業生の皆さんも地域で育まれ、地域で成長をしました。グローバリズム、都市化の流れの中でこそ、もう一度立ち止まって地域を見つめてください。東日本大震災は3月11日で3年目を迎えました。さまざまな復興への願いが確認をされました。その復興の原点は地方の自立です。釜石市復興センター鹿野代表は「僕たちはいつまでも被災者の顔をしてはいけない。街の息を吹きかえすには人です。地域が人を育てる。人が人を支える仕組みを1日も早くつくりたい。」と新聞のインタビューで答えています。また、25歳の長男、健（たける）君を津波で亡くした浅沼ミキ子さんは、政府主催の追悼の式典で健（たける）君にこう呼びかけました。「あなたが大好きだったこの街を、安心して暮らしていける街になるように歩んでいきます。ずっと一緒に見守っていてください。」と。

地域には人ととのふれ合いがあります。人との縁があります。地域で働くこと、地域で生きていくことに誇りを持ちましょう。本学は来年70周年を迎えます。戦後の荒廃から70年の歳月、地域で人を育み、地域に人材を輩出してきました。そのことに喜びと誇りをもっています。70周年の記念式典には是非ご来場いただき、母校の誕生を共に喜びあおうではありませんか。みなさんの幸多き人生を、そして、素晴らしい未来を心より祈っています。



いう禅語を思い起こさせます。人の姿かたちは変わっても、桃花は昔と変わることなく春風の中に咲きこぼれている、という意味です。ここでいう桃花は不变の真理としての仏法の象徴ですが、私たちはこれを長崎国際大学の搖るぐことなき伝統と読み替えることができましょう。毎年、一人一人かけがえのない多くの若者が本学に入學し、学びの成果を得て、巣立つて行きます。そうした繰り返しの中で作り上げられていく伝統は、まさに春爛漫のそよ風の中で咲き誇る桃花のようです。

同窓生の皆さんもぜひ、今生きているその場所に皆さんならではの大きな花を咲かせると共に、長崎国際大学の芳しい桃花を未永く見守っていただきますようお願い申し上げます。

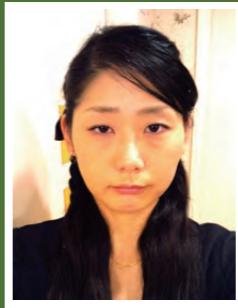


学校法人九州文化学園 理事長  
長崎国際大学 学長  
**安部 直樹**

## 同窓会悠和会 役員紹介

悠和会監事  
国際観光学科3期生 岩永 佳子

同窓生のみなさん、お元気ですか？  
国際観光学科3期生の岩永です。同窓会発足時より、微力ながら母校への恩返しができれば…と役員をさせていただいています。



今年も多くの後輩たちが新たな一步を踏み出す時期となりました。これから新社会人として頑張って欲しいと思います。

最近の同窓会は、役員会を定期的に行い、今後の同窓会の方向性について話し合いを行っています。現在、行っている在学生向けの支援についての報告や、新たに同窓生、在校生に対して何か同窓会として支援ができないか…歩みはゆっくりかもしれません。

今後も同窓生のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

佐世保の地で同窓会役員が会議を重ねている中、沖縄に同窓会支部が発足しました。前回の同窓会誌でも報告されていますが沖縄出身の同窓生、現在沖縄に住んでいる同窓生を中心に沖縄支部発足が伝えられました。こうして、大学以外で同窓生の集まる“場”ができることに喜びを感じます。ぜひ、他の地域でも支部ができ、同窓会が盛り上がればと思います。みんなの地域でも同窓会支部を発足してみませんか？同窓生に会えるいい機会になると思います。みなさんからの報告もお待ちしています。

今後も同窓生のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 卒業生の今 国際観光学科1期生 岸田 武



久しぶりに佐世保、そして国際大学へと足を運びました。早いもので、この春で大学を卒業して10年になります。改めて歳を取ったなあと痛感します（苦笑）

私は現在JR東日本に就職して、首都圏の大動脈・山手線に車掌として乗務しています。1日100万人以上のお客さまがご利用になる山手線。佐世保にいた頃からは想像もつかない人の多さに、今でも圧倒される毎日です。

駅や車両も機械化が進んで、お客様と直接関わる機会は減りました。自分がイメージしていた華やかな「車掌さん」とは違い、どちらかと言えば地味であり、縁の下の力持ちと言った所でしょうか。それでも、輸送混乱時の情報提供など「だからこそできるきめ細

かいサービス」を実践できるように努めています。何より、運転士とともに数千人のお客様の命をお預かりしているという責任の重さを忘れることはあります。その使命感こそが、仕事のやりがいにも繋がっています。それでも、人の多さに疲れて、くじけされることも少なくありません。

都会の喧騒に疲れたとき、足が運ぶのはやはり佐世保の街。街並みは所々変わりましたが、お世話になつた大学の先生方や事務局の皆さん、いつも笑顔で「よう来たね～」「おかえり」と。10年前から変わりません。私にとって佐世保と長崎国際大学は、いつまでも心のオアシスです。

私の故郷は京都ですが、佐世保はそれと同じくらい思い出深い街です。大学生活4年間をこの街で過ごせて本当に良かった、最近改めてそう思います。第2の故郷へ、次はいつ帰ろうかな。（写真は、今年の3月に岸田君と元職員の切間さんが訪ねて来てくれた時のものです）

## 卒業生の皆さん 近況をお知らせください

大学には同窓生の幸せ報告や活躍している様子がよく報告されます。ただ知らせが来るのは一部の方のみ…そこで、この同窓会誌を通して同窓生みなさんの『今』を伝えてみませんか？

結婚したり、お子さんが出来たり…仕事や趣味に熱を注いでいたり…今は卒業して、社会人として忙しい日々を送っているかもしれません。そんな生活の中で同窓生に連絡し、自分の現状を知らせる機会を作りたいと思います。

そこで、同窓会では、同窓生みなさんの『今』について同窓会誌に掲載する“場”を設けます。幸せ生活の報告（結婚しました♡子供が生まれました♪等）、自分の打込んでいることについて（今、こんな仕事で頑張ってい

ます！等）、同窓生と集まりました！等々…掲載する内容は自由です。今後も同窓生の『今』をコーナーとして継続掲載していきたいと思います。寄せていただくコメントは短くても、熱く語っていただいて構いません。文字数等は気にせず、同窓会誌に掲載する写真とコメントを同窓会まで送ってください。

同窓会誌は同窓生の交流の場としても活用できればと思います。大学に来ることが出来なくても同窓会誌を通して様々な情報が入り、同窓生間の距離も身近になればと思います。その為にも多くの同窓生のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ぜひ同窓会（dousou@niu.ac.jp）まで近況をお知らせください。

# 退職者ご挨拶

## 学生とのボランティア活動

国際観光学科 教授  
安部 芳樹



国際大学での思い出は、学生と行ったボランティア活動である。

タイのスラム地域の子ども支援のボランティア活動では、保育園や幼稚園に贈った滑り台の贈呈式後、我先にと滑り台を滑る子どもを見て喜ぶ学生の姿や「自分たちも沢山の子どもを喜ばせることができますね」と感動し話してくれた学生もいた。

東日本大震災の活動では、公民館や空手の道場に宿泊し、農地の整地や仮設住宅に住む高齢者のボランティア活動を行った際には、学生は優しい気持ちを表現していた。

早岐茶市のボランティア活動では、大震災の共同募金を行い、毎年十万円を超えるお金を岩手県山田町に寄付してきた。

農業ボランティアでは西海市で芋掘りやミカンの取り入れ、蕎麦の刈り入れ作業に参加し、自然に親しむことの大切さを学んでいた。

その他雪浦の交通整理のボランティアにも参加するなど、学生の積極的な姿勢や優しさ、思いやりあふれる心情に長崎国際大学生の心の豊かさを感じるとともに行動力に富む若人の青春を尊く思いました。

私も顧問としての職務ではなく、心洗われる活動として楽しみに参加していた。ボランティア活動と共に、生き生きと活動していた学生の姿が目に焼き付いているとともに、学生との活動で多くの元気をもらっていたことを思い出す。

職は辞したとは言え、今後とも国際大学のボランティア部の顧問や講義を通して活動するので、国際大や学生との絆が完全に断たれたわけではないが、退職というひと区切を無事迎えることができたことは、大学や学生のお陰と心より感謝している。

卒業生のご多幸と長崎国際大学の繁栄を祈っている。

## おおきに、みなさん

国際観光学科 講師  
平井 美津子



2006年、大阪から佐世保の地にやってきました。博多から特急みどりに乗り、鳥栖をこえたあたりから、車窓から見える景色が山や田んぼばかりでしたので、私はどこに行くのかと少々不安に思いましたが、佐世保に着くと景色が変わりほつとしたことを覚えています。以後8年間、英語の教員として、多くのことを学ばせてもらいました。最初の頃、早口の大阪弁で話していたら、「せんせー、何おこってん?」と言われ、軽くカルチャーショックを受けました。そういうえば、みんなゆっくり話すけど、これが佐世保のペースなのだと自覚するようになってから、私もしゃべるペースをおとして話すようになりましたが、大阪弁は抜けませんでした。

所属した国際観光学科では、観光に関するいろいろなことを学んだおかげで、5年前には英語の通訳ガイドの資格を取得することができました。観光地の多い関西でその資格を活かせたらと思っています。また7年間、男子ソフトボール部の顧問として淡路島から沖縄まで、元気な部員と共に行動し少々きついこともありましたが、当初、初戦敗退のチームが、2012年には九州第2位のチームに成長することができました。私にとって、野球やソフトボールの選手は汗臭いイメージがありましたが、試合が終われば、すぐに着替え、温泉やコインランドリーの話ができるのを聞いて、あ~時代が違うんだと実感しました。昨年度は結果を出すことができませんでしたが、2014年には全国大会出場を果たしてくれるだろうと期待しています。

見送ってくれた父も一昨年亡くなり、私の状況も変わってきました。みなさんと過ごした日々を思い浮かべるととても名残惜しいですが、大阪に戻る決心をしました。親戚も友人もいない九州に来たおかげで、長崎は第2の故郷となりました。みなさん

が大阪に来られた時は、ヒョウ柄を着てトラの帽子をかぶつて最高のおもてなしをしたいと思います。本当にありがとうございました。ごきげんよう。

## 13年間の全てに感謝

社会福祉学科 教授  
山本 主税



13年前、小生が福祉現場から大学へ転職した動機は大学で「眞のソーシャルワーカーを育てたい」でした。その願いは、学部と大学院の多くの卒業生が社会の各方面で活躍し立派に答えを出してくれています。

本物の福祉専門職には、優しさ、思いやり、謙虚さとともに積極性や郷土愛、幅広い社会常識(政治・経済・文化・地理・歴史など)をベースに、その上に高度の専門知識・援助技術・職業倫理を持つことが必要です。単に法律や制度を熟知し、資格を持っているだけでは福祉専門職としては不十分だと思います。

他者への心からの思いやりと行動ができる。それこそが長崎国際大学が標榜する「いつも人からそして心から」であり「眞のホスピタリティー精神の発露」でしょう。

ところでマッカーサーは退役に当たり「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」といったそうですが私は「大学は定年で去る、だが人生の定年ではない、まだこれからだ。」と思っています。

最後に、浅学菲才の小生に大学教員としての職を与えてくださった安部理事長・学先生と本岡本部長に心から御礼を申し上げます。

また常に縁の下で、きめ細かく教育活動を支えてくださった事務局の皆さん、長い間ありがとうございました。  
ご厚誼・ご指導いただいた木村学部長、田淵・豊島両学科長、各学部学科の多くの先生方、これからも先生方の優れた教育・研究とご活躍・ご健勝を、併せて大学の末永い発展を心から祈念しております。

卒業生の皆さん! 13年間、皆さんと一緒に、泣いたり、笑ったり、遅刻や私語を叱ったり、魚釣りやゼミ旅行に行ったり、コンパやカラオケで大はしゃぎしたり、4年生時には、国家試験の全員合格を目指して毎日朝から夜の9時、10時まで猛勉強したり、本当に楽しかったですね。

卒業生の皆さん、笑顔や笑い声は一生(死んでも)忘れません。君たちとこの大学で出会え、楽しい13年間の時を共有できて、私は最高に幸せな教員でした!

今、13年間お世話になった全ての皆さんに、心から感謝しています。ありがとうございます。

## 退職にあたって

社会福祉学科  
久原 美紀



長崎国際大学を卒業された同窓生の皆さん、こんにちは。社会福祉学科7期生の久原美紀です。いかがお過ごしでしょうか?

私は、大学院修士課程を修了後、本学の社会福祉学科助手の出産休暇・育児休業期間の代替ということで1年2ヶ月間、社会福祉学科の臨時事務職員として勤務させていただきました。主に、学科の一般事務として実習事務を務めました。社会福祉士や精神保健福祉士、介護福祉士取得を目指す学生さんたちと関わり、国家試験を受験するにあたっての勉強の仕方などの相談・サポート、実習業務では、実習施設との文書の取り交わしや実習先と学生との間の調整など、学生さんたちが実際の現場での学びを円滑に取り組むことができるよう、実習指導を担当する諸先生方と協力しながら、務めてまいりました。

私も、同じように本学で社会福祉を学んだことから、在学中の学生さんの目線に立ち先輩としてアドバイス等相談に応じることができ大変良かったと思っています。国家試験の受験に

向けて頑張っている場面や、実習を終えて成長してきた学生の姿を見て、私自身も刺激を受けたことも多々あり、そうした機会に触れることができたことが、一番の喜びでした。慣れないことも多く、時に一人一人の学生さんにどのように合わせて関わつたらよいか悩むこともありましたが、教職員の方々の協力や支えのおかげで、一つ一つ業務に取り組むことができました。

徐々に本学での仕事にようやく慣れてきたところではあります、契約期間満了と結婚により2月末をもって退職することとなりました。学生時代から約7年半お世話になった、この長崎国際大学を去るのは大変寂しいですが、新たな人生のスタートを歩むべく何事にも挑戦する心を持って自分らしく頑張りたいと思っています。また今後も、本学の更なる発展のために、同窓生の皆さんと共に貢献していくつもりです。今後ともどうぞ宜しくお願ひいたします。

## 退職のご挨拶

健康栄養学科 助手  
肥田 崇



春分の候、長崎国際大学同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、私事で大変恐縮でございますが、平成26年3月31日をもちまして、長崎国際大学 健康管理学部 健康栄養学科 助手の職を辞することとなりました。2年にわたり勤めさせていただきましたのも、ひとえに皆様方のご厚誼とご指導の賜物と只々感謝の気持ちで一杯でございます。心から厚く御礼申し上げます。いたらぬ私ではございましたが、皆様方のおかげで大過なく勤めさせていただき大変喜んでおります。今後とも何卒変わらぬご厚誼をお願い申し上げます。

実は、私も健康管理学部 健康栄養学科の第6期卒業生でありまして、さらに卒業後は本学大学院 健康管理学研究科 健康栄養学専攻へ進学し、修士2年目から助手として勤務させていただきました。ですから、本学には7年間もお世話になりましたことになり、「教えられる側」から「教える側」へという大変貴重な経験をさせていただきました。ここで学んだ多くのことを今後も活かして、いろいろな事に挑戦し、頑張っていきたいと思っています。

こうして、大学に残っていますと、遊びに来てくれる卒業した先輩や同期の友人、後輩と会ってたくさんの話をすることができます、その時に、皆様の元気に頑張っている話を聞き、自分の励みにしてきました。同窓会は、卒業生と母校と学生をつなぐ絆の役目を果たすと信じております。他の先生方もきっと皆様とお会いできるのを楽しみにしていると思います。落ち込んだ時でも、何か嬉しいことがあった時でも、どんな時でも構いません、長崎国際大学と本学同窓会が卒業生にとって気軽に立ち寄り、集える場となること、そして、卒業生と在学生との交流がさらに発展する場となることを願っております。

最後になりましたが、長崎国際大学同窓会会員の皆様方のご健勝とご活躍、そして長崎国際大学の一層のご発展を祈念いたしましてお別れのご挨拶とさせていただきます。

## お別れの言葉に代えて

薬学科 教授  
額原 崇尚



高齢化社会が進行し、高齢者のための医療・福祉は私たちにとってますます大きな課題になってしまいます。ここでは延命治療と生命の尊厳について考えてみたいと思います。

私は一年生に「生命倫理」という科目的授業をしており、先日は「延命治療」について話しました。終末期にある患者さんに施行されることのある経管栄養や胃瘻造設、人工呼吸などの延命治療について説明し、延命治療の是非は難しいけれども真剣に

考いく必要があるという内容でした。毎回授業が終ると、感想やコメントを持つ学生諸君は出席票のコメント欄にそれを書いて出すことになっていますが、その「延命治療」の授業後に私が受けとった印象的なコメントを以下に紹介しましょう。

ある学生Aさんは「私の祖父は脳梗塞で意識も無く身体も動かせませんが、息はしており心臓も動いています。医師から胃瘻を作りますかと相談を受けたとき、親戚の大半は同意しませんでしたが、ひとりの叔父が胃瘻で長生きしてもらおうと言ったために胃瘻を作り、もう何か月も生きています。本人は生前、もしもの時は延命治療をするなどと思っていたのに、ただ生きているだけの祖父は本当にかわいそうです。」というコメントを寄せました。

いっぽう、別の学生Bさんは「私の祖父は脳の病気で植物状態になっていますが、胃瘻を作つてもらったので栄養状態も良く、血色もいいです。意識は無いのですが、触れると暖かく、それだけでも祖父が生きていることが実感できて嬉しいです。」と書いています。

胃瘻の功罪一つをとってみても、このように感じ方捉え方が人によって違うんですね。延命治療の是非の問題は、生命の尊厳とも絡んで本当に難しいと改めて感じました。この命題は、私自身にも、また私の身のまわりの人にもいつか関わってくるかもしれないと思い、これからも心に留めておきたいと思っています。

## わが人生の思い出

薬学科 教授  
丸茂 義輝



この3月末日をもって長崎国際大学薬学部を定年退職することとなりました。学生の皆さんと一緒に過ごした8年間は、まさに光陰矢のごとし、アツという間に過ぎてしまいました。そこで、消え去る前にわが人生を振り返り、ここに書き残したいと思います。

人生、いつも追い風、順風漫歩で洋々たる人生を送る人はほとんど希だと思います。人生必ず挫折は付きもの、楽あれば苦もあるものです。私が人生初めて挫折を感じたのは19~20歳のころです。高校時代から管弦楽団に入っていて、なぜかファゴットに見せられ、音楽家を目指しました。しかし、プロスポーツ選手もそうですが、プロ演奏家には誰もがなれるものではありません。意気消沈しつつ大学の農芸化学科での勉強に専念しました。はじめはあまり興味がわきませんでしたが、先生から紹介されて当時農林省の農業技術研究所にアルバイトに行き、微生物の培養や土壤の化学分析の仕事をしました。何回か行ってスタッフの議論を耳にしながらアルバイトをしているうちに、なんだか自分が研究しているような気がしてきたのです。そんなわけで研究者を志すようになりました。科学警察研究所に採用が決まったときは天にも登る思いでした。ところがこの研究所でも何回かの挫折が待ち受けているのですが、これらを語っていると、とてつもなく長い話になってしまないので、あとは省略いたします。

おそらく皆さんも何度か挫折を経験することでしょう。現に今、挫折を感じている人もいるかもしれません。でもその落ち込みは決して長く続くものではなく、耐えていくうちに何かしらの光明が見えてくるものです。私の経験から言わせてもらおうと、あと3年は石にかじりついてもガンバルゾーと思うことです。気分の落ち込みから回復して何かに興味を持ったら、それにチャレンジすることが挫折から回復する道です。抽象的な話になってしまいましたが、もしこれから挫折を感じたら「石の上にも3年」と思い出してください。

## 長崎国際大学図書館資料の卒業生への貸出ができるようになりました

長崎国際大学図書館資料の学外利用者貸出が4月1日よりスタートすることになりました。今まで、図書館内の閲覧等は、利用可能でしたが、平成26(2014)年4月1日より、貸出ができるようになりました。

ご存知のように本学図書館は、一般の図書館とは違い、観光、社会福祉、栄養、薬に関する専門書が所蔵されおり、約7万1千

冊の図書と700種以上の雑誌を所有しています。卒業生の皆さんのが業界誌や専門分野の図書を調査する必要があるときは、是非ご活用ください。なお、貸出を受ける際は、利用者証が必要で、一般の方は500円の発行手数料がかかりますが、卒業生は、無料で発行できます。貸出期間は2週間、5冊まで貸出できます。

詳しいことは、図書館のホームページをご確認ください。

## 平成26年度より国際観光学科にグローバルツーリズムコースが設置されました

平成26年度より、人間社会学部国際観光学科に「グローバルツーリズムコース」を設置します。この新コースは英語スキルのニーズの高まりと、社会が要請する人間性と専門性を兼ね備えた人材育成を目的に、観光の専門知識を持ったグローバル人材を育成するために設置されるものです。

このコースに所属する学生は、1年の夏休みに1か月の短期留学、2年後期に半期間の留学をすることになっていて、2年前期までのコース専門科目は、全て留学先での授業を想定して、カリキュラムが組まれていることが特徴です。よって、英語で発表、プレゼンテーションができ、ディベートもできるようになるための科目、英語の授業を聞いて、ノートがきちんと取れるようになるための科目、多くの課題をこなすために、英語の文献を素早く読めるようになるための科目、英語でレポートを書くことができるようになるための科目などを設定しており、これらの学びを通して、日本文化の発信もできる

ようになることを念頭に置いたプログラムとなっています。

3年次になると留学から帰ってきますが、帰国後は、国際観光学科の専門科目や、資格、卒業に必要な科目を履修します。しかし、これだけではないのが、この新コースの特徴です。3年次以降も英語で講義される科目を用意していて、英語圏からの留学生と同じクラスで受講します。このことにより、留学時と同様の環境で学び続けることができるようになっています。これが最大の売りの一つです。

さらに、このコースでは、入学時から定期的に英語力を測定していく、卒業時にはTOEICスコアで200点アップを目指します。そのために、English Up(通称 E-up)と呼ばれる学修会を授業外でも行い、1年次だけでも年間1000時間以上の英語学修時間を確保します。

このような新コースを設置します。卒業生の皆さんも、この新しいコースにご期待下さい。

## 長崎国際大学同窓会クラブ・サークル表彰式を開催しました

平成26年3月8日(土)に長崎国際大学同窓会クラブ・サークル表彰式を開催しました。この表彰は、同窓会より日頃活躍している在学生の部活動の奨励とさらなる活躍を期待して行われました。授賞式では、折原同窓会会长より激励があり、目録が渡されました。受賞した各団体の代表者が同窓会への感謝を述べ、今後の抱負と活躍を誓いました。

本年度、受賞した団体は、7団体です。

女子テニス部 男子テニス部

男子ソフトテニス部 女子ソフトテニス部

ゴルフ部 空手道部 アーチェリー部

また、これから活躍が期待される部活・サークル11団体にも「バックアップ支援」として奨励金を贈りました。

書道サークル サッカーチーム  
エイサー・サークル 男子バドミントン部  
よさこい・サークル 茶道部 吹奏楽部  
男子ソフトボール部 薬学野球サークル  
軽音楽・サークル 男子バレーボール部

これから長崎国際大学のクラブ・サークルが、更に発展していくことを期待いたします。



## 受賞クラブからのコメント

### 女子テニス部 主将 長尾 祐美

この度は昨年に引き続いてのクラブ団体表彰と、同窓会より支援金等頂きました。ありがとうございました。

私達女子テニス部は、9月に行われる全国テニス王座決定試合九州地区一部リーグ戦にポイントを合わせ、優勝争いをするための準備を、チーム全体で取り組んでいます。この度頂きました支援金につきましては、インカレ予選に向けての合宿や、学外練習費、ボール代等に使わせていただけたいと思います。

今年は初めて男女で一部リーグ戦を戦い、さらに活気あふれたテニス部になります。多くのサポートに部員一同、大変感謝しております。皆様の期待に応えることができるよう精一杯頑張っていきますので、どうぞ応援よろしくお願いいたします。

### 男子テニス部 主将 渡邊 智紀

今日はこのようなクラブ団体の表彰に選んでいただきありがとうございます。男子硬式テニス部は創部初の一部リーグへと昇格することが出来ました。

一部リーグへとなるまでは様々な出来事がありました。しかし今まで卒業された先輩方が頑張ってくれたお陰で、ようやく今年からは一部リーグで戦うことができます。その戦えなかつた先輩方の想いなども忘れず、十月のリーグ戦では優勝争いできるように頑張りたいと思います。4月からは個人戦も始まっていくので、個人戦でも上位進出できるよう日々努力していきたいと思います。

そしてこのように応援してくださる方や、サポートしてくださる方に感謝の気持ちを持ち、結果を残していくことで恩返しをしていきたいと思っています。最後になりますが本当に表彰していただきありがとうございました。

### 男子ソフトテニス部 主将 海野 翔太

この度は、同窓会からのご支援本当にありがとうございました。部員一同大変感謝しております。現在、男子ソフトテニス部は、九州学生リーグの上位昇格と、西日本インカレ、全日本インカレで勝てるよう日々練習に励んでいます。昨年度は、九州大会で上位に入り全日本インカレに出場しましたが良い結果を残すことができませんでした。今年度はこの同窓会からの支援を励みに、先輩方からの支援だということをしっかりと認識し、力に変え今後ともしっかりと練習に励みたいと思います。

この度は、本当にありがとうございました。

### 女子ソフトテニス部 主将 田浦 麗美

この度は、同窓会からのご支援本当にありがとうございました。部員一同大変感謝しています。現在、女子ソフトテニス部は、九州のトップレベルで活躍する事を目標に日々練習を行っています。昨年度は、九州学生リーグ2部リーグ戦で惜しくも2位という結果で1部リーグに昇格することはできませんでした。個人戦では全日本インカレに出場したものの、全国のレベルは高く思うようなプレーができず悔

しい思いをしました。今年は、九州学生リーグ1部昇格と全日本インカレで良い結果を出せるようしっかりと練習に励んでいきたいと思います。

この同窓会からの支援は、部活動をする私たちにとって大きな励みになります。本当にありがとうございました。

### ゴルフ部 主将 屋比久 恒平

今回、同窓会からゴルフ部の活動が、このような形で表彰されたことは、部員一同大変喜んでおります。

本年度のゴルフ部の成績は、九州学生ゴルフ連盟公式戦の春季リーグ戦で優勝することができ、全日本大学対抗戦で7位入賞し、日米大学対抗戦に出場することができました。

創部依頼、大学関係者の方々をはじめ、地域の方々にもご協力して頂き、この成績が残せたと思っております。

今後はこの表彰を心の支えとし、栄誉に恥じることのないよう更なる成長をとげ、活躍の場を広げたいと考えます。

卒業生の皆様、今回はこのような表彰をして頂きありがとうございます。これからも精一杯練習に励み、努力していきますので今後とも応援の程宜しくお願い致します。

### 空手道部 主将 山川 征九郎

空手道部として表彰をしていただき大変嬉しいと思っております。今年度は部員も増え、より活気のあるクラブとなり、多くの大会で成績を残すことができました。これも支えてくださる周りの方々のおかげだと思います。

来年度はさらに成績を残し、結果で恩返しをしていけるように日々の稽古に励んでいきます。目標は全九州大学空手道選手権大会において男女共に優勝することです。そのため一人一人が考え、内容の濃い稽古をし、日常生活では他の学生の模範となるように心掛けたいと思います。

今後ともご声援よろしくお願いします。

### アーチェリー部 主将 高谷 伸

この度は、クラブ表彰団体に選んでいただきありがとうございました。

今年度は、全国王座決定戦において、過去最高の男子5位、女子6位と、個人では、永峰さんがナショナルチーム入りや、インカレアウトドア・インドア3位。その他には、丹野君が全日本室内選手権5位入賞など、めざましい活躍がありました。現在は、射場の方が完成してきており、練習環境の向上とともにチームの士気も高まっています。

来年度は、今年度の結果を上回るよう、支えて下さった方々に感謝しながら、練習に一生懸命取り組んでいきたいと思いますので、応援よろしくお願ひいたします。

